令和4年度第5回 聖籠町経営戦略推進会議 議事要旨

日 時 令和4年10月14日（金）15：00～16：30
場 所 聖籠町役場3階 大会議室
出席委員 宍戸委員（会長）、五十嵐委員、石田委員、加藤委員、小林委員、佐藤委員、手嶋委員、細野委員、三上委員
欠席委員 菅原委員
事務局 高松副町長、高橋総合政策課長、小林総合政策課長補佐、今井主任
事業担当課 加藤町民課長、松井保健福祉課長、小野長寿支援課長、高橋生活環境課長、渡邊産業観光課長、佐藤社会教育課長、天野子ども教育課長補佐、阿部教育未来課副参事

- 次 第**
- 1 開 会
 - 2 議 事
 - (1) 聖籠町行財政改革大綱に係る効果検証のまとめについて
 - (2) 聖籠町経営戦略推進プランの位置づけについて
 - (3) 経営戦略に基づく取組内容について
 - 3 事務連絡
 - 4 閉 会

議事要旨

議事1 聖籠町行財政改革大綱に係る効果検証のまとめについて

- 事務局から資料1「聖籠町行財政改革大綱に係る効果検証のまとめについて」に沿って説明。

会 長 本来の行革とは、歳出削減の視点だけでなく、新しい事業や直面する課題への対応のために実施されるものであり、その関係性を資料に示していただいた。

議事2 聖籠町経営戦略推進プランの位置づけについて

- 事務局から資料2「聖籠町経営戦略推進プランの位置づけについて」に沿って説明。

会 長 経営戦略推進プランで掲げようとする「5つの戦略」について、前回会議の意見を踏まえ、健康づくり支援戦略・未来投資戦略・子育て環境充実戦略を一つの輪で結び、それらを財源確保戦略と組織力向上戦略で支える形になるよう、図を整理していただいた。

また、総合計画と経営戦略推進プランの関係性についても示していただいた。今後、各戦略を個別に議論していく中で、関連する部分に丸印を付ける作業をすることになると思う。

委員 資料では、「総合計画の施策の中で、経営戦略推進プランの戦略として優先・重点的に行うもの」に丸印を付けるとされているが、関連するもの全てを選択するわけではないという理解でよろしいか。その考え方であれば、「持続可能な行財政運営」の項目には丸印を付けにくいのではないかと考える。

総合政策課長 丸印は、ご指摘のような方針で付けていく。また、今回示した図では記載がないが、財源確保戦略と組織力向上戦略については、「将来を見据えた持続可能な行財政運営」に関わってくると考えている。

事務局 例えば、総合計画で掲げられている「多様な人々がつながり、誰もが活躍できる地域づくり」の「多様な主体との連携・協働」、「将来を見据えた持続可能な行財政運営」の「将来を見据えた公共施設の最適化」などは、健康づくり支援戦略・未来投資戦略・子育て環境充実戦略と関わる部分もあると想定している。

委員 そうすると、総合計画の中身をよく把握していないと、意見を出しにくいということか。

会長 各委員が総合計画に全て目を通すのは容易でないので、総合計画と経営戦略推進プランの関係性については、次回会議で事務局の案を示す際、丸印を付した根拠が分かる資料となるよう工夫していただきたい。

総合政策課長 承知した。

議事3 経営戦略に基づく取組内容について

○ 事務局から資料3「経営戦略に基づく取組内容について」に沿って説明。

会長 「健康づくりに係る企画調整部門」は、役場内に設けるのか。

総合政策課長 はっきり決まっているわけではないが、当該部門を庁内に置くことにより、現在様々な部署にまたがって実施している健康づくり関連事業のマネジメントを行うイメージを持っている。

委員 一般的に、健康づくり関連事業には、元気な方ほど参加しており、そうでない層にはなかなか足を運んでもらえない実態があると聞く。妊娠期から高齢期までの意識づけにより、地域ぐるみ・家族ぐるみで、バランスの取れた事業を展開されたい。

会長 どの自治体でも頭を悩ませている問題であるが、「町から町民に参加を促す」だけでは限界がある。これに加え、「町民から町民に呼び掛ける」という観点で考えることが重要である。

委員 「健康寿命の延伸」は、町の全ての課に関わると思うが、どのような連携を取りながら進めるのか。単独の課での事業展開は難しいだろうし、

町民に上手く伝わらないと思うので、役場の体制を整理し、図式化すると分かりやすいと思う。

総合政策課長 まだそこまで議論されていない。まずは既存事業の効果を検証してから、健康寿命の観点も含めて全体的に検討していきたい。

会 長 どのようなスケジュールで検討するのか。

総合政策課長 令和4年度中に経営戦略推進プランを策定し、それに基づく行動計画を作る予定になっている。令和5年度から体制づくりが進み、既存事業の検証作業などを進めることを想定している。

委 員 健康づくりの推進体制については、総合計画の優先・重点施策との関連性が今後示されるということか。

総合政策課長 本日の議論を踏まえ、総合計画との関連性について事務局で検討し、次回の会議で案を提示する。

委 員 「健康づくりに関する協議会」とは、資料3の1ページの図の中で、どの部分を指すのか。

総合政策課長 スポネットせいろう及び社会福祉協議会を含む形なので、図全体を指す。

委 員 未来投資戦略の「防災対策の充実」において、「アレルギー対策や感染症対策を踏まえた備蓄品」とは、どのようなものか。

生活環境課長 感染症対策としてはアルコールやパーテーションを整備し、アレルギー対策では主要27品目への対応などを考えている。

会 長 「子どもたちの安全を確保するための学校園の施設改修」とあるが、この「園」とは、どこを指すのか。

総合政策課長 町立幼稚園のことである。

委 員 認定こども園の施設改修については、町の補助はないのか。

子ども教育課長補佐 私立認定こども園については、国等の補助があれば、活用できると思っている。

委 員 子育て環境充実戦略に「乳幼児の屋内遊び場」とあるが、いつ頃を目安に設置されるのか。

子ども教育課長補佐 現在、場所の確保等の検討を進めているので、決まり次第お知らせしたい。

会 長 「子育て支援の拡充」で触れられている子ども家庭相談センターと子育て支援センターは、なぜ2つに分かれているのか。内容に応じて窓口が異なると、町民ニーズに対応できているのか疑問に感じる。シームレスにサービスを提供できる体制は考えていないのか。

子ども教育課長補佐 子ども家庭相談センターでは、ソーシャルワーカーを中心に、家庭や学校で子どもの総合相談に対応している。一方、子育て支援センターは、乳幼児の子育てを支援するために、保育の場所を提供する事業を実施しているものである。

副町長 支援する部署が二重にあるイメージを持たれるかもしれないが、双方のターゲットが異なっており、役割は重複していない。また、必要に応じて双方の情報共有を行い、組織的に対応している。ただし、名称が分かりにくくなっているため、その部分は工夫が必要かもしれない。

委員 実際に町で子育てをする上では、両者があることに不都合を感じることはなく、どちらも存続し、独立してもらっていた方がありがたい。

委員 亀代児童館には年齢制限なく子どもが集まっているようだが、自分より年長の者と共に過ごすことに抵抗を感じるような子どももいると聞いている。

子ども教育課長補佐 児童館には常駐の職員もいるので、異なる年齢の子どもと一緒に遊べるような環境づくりをしていきたい。

委員 「民間・地域人材の活用による学力向上」について、学力向上が町にとって大事な課題であることは認識しているが、文章全体の表現に引っ掛かりを感じた。また、この中で「民間企業のノウハウ」とは何か。

教育未来課副参事 検討段階であるが、オンラインの授業を実施してくれるような講師の発掘を想定している。

また、小学校の自学支援ルームや中学校の「学古堂」などで学習指導を行うことができる地域人材の発掘のほか、教員の働き方改革の一環として、休日の部活動の地域移行に向けた準備も進めている。

委員 それぞれの地域によって、人材発掘の手法が変わってくると思う。例えば、都会では学習支援に協力してくれる人材が豊富にいたとしても、聖籠町では、なかなか難しいと思う。それを踏まえて、地域に即した人材の確保に向けて検討いただきたい。

会長 委員と事務局のやり取りを聞く限り、「民間・地域人材の活用による学力向上」とあるが、「民間」でなく「地域」に重点があるように思うので、表現を再考いただきたい。

委員 「0～2歳児の医療費を無償化する」とあるが、これは令和5年4月からの決定事項なのか。現行では、何歳までが無償化の対象となっているのか。

保健福祉課長 令和5年4月から実施予定となっている。現在は、高校生の子どもまで、通院1日当たり530円を超えた金額を助成し、同一医療機関での2回目以降の受診は全額助成となる。入院については、1日当たり1,200円を超えた金額を助成している。

委員 0～2歳児について、現在窓口で支払っている530円をなくすということだが、個人的には受益者には一定の負担をしてもらわないと、医療資源が枯渇してしまうように思う。

また、「物価高騰に起因する給食費の上昇分の支援」とあるが、短期的な影響にとどまるかもしれない物価高騰について、中期的な計画であ

る経営戦略推進プランに記載することに違和感がある。

会 長 確かに、既に決まっている0～2歳児の医療費無償化や、足元の影響にとどまるかもしれない物価高騰について、経営戦略推進プランに記す必要があるのか疑問に感じた。

総合政策課長 指摘のとおりだと思うので、見直しを行いたい。

会 長 「一時預かり保育の拡充」の項目において、「乳幼児の屋内遊び場」についても触れられているので、「一時預かり保育」という表現を「保育環境」に置き換えることを提案したい。